

2016年2月 定例自然観察会 報告書

六甲山自然案内人の会 1班 上原

1. 概要

- (1) 実施日時 2016年2月13日(土)9:45~15:10 天候 曇りのち雨
- (2) コース 山芦屋公園(集合)→高座滝(トイレ)→高座谷第1堰堤→高座谷第2堰堤
→高座谷第5堰堤下広場(昼食)→中央稜との出合→風吹岩
→旗振小屋跡→保久良神社(トイレ)→保久良梅林→天上川公園(解散)
- (3) ポイント 高座の谷を散策し、冬の植物を観察します。
高座谷は、六甲山南斜面で陽だまりが多く、風も穏やかで冬の植物観察には最適です。植物が春を迎えるために、どのような準備をしているかを観察します。
冬芽・葉痕など他の季節では気付かない発見ができるでしょう。
- (4) 参加者 ビジター18名+会員25名=43名
- (5) 配布資料 コースMAP

2. 準備・実施

- (1) 自主研修会 2月6日 参加者(会員)33名
- (2) 説明担当 ビジター対応:1班(木下、上原健)、2班(大橋、石田淑)、
会員対応 :松本、武川

3. 観察記録

- (1) 山芦屋公園(出発10:00)→高座滝(10:20)→高座谷第1堰堤→高座谷第2堰堤
→高座谷第5堰堤下広場(昼食)(12:00)
- ・山芦屋公園で班分け後、コースの説明及び安全注意を行う。(特にイノシシ対応)
 - ・高座滝で先鋭的登山家 藤木九三氏及びロックガーデンについて説明をする。
 - ・高座谷第1堰堤広場で冬芽・葉痕について説明し、そのあと班別に観察をする。
 - ・第2堰堤広場で観察。
 - ・第5堰堤下広場で3月定例自然観察会のチラシ配布および六甲山自然案内人の会エキスパート参加勧誘を行う。

《観察植物》

オオアリドオシ、ハリエンジュ、カキノキ
アカメガシワ、クマノミズキ、タラノキ



ハゼノキ、アラカシ、カラスザンショウ
マルバアオダモ、コナラ、モチツツジ
コバノミツバツツジ、ナンキンハゼ
ヤマザクラ、イヌツゲ、イロハモミジ
ヒメヤシヤブシ、オオバヤシヤブシ



(2) 高座谷第5堰堤下広場(出発12:25)→中央稜出合(12:50)→風吹岩(13:05)

- ・観察地での混乱を避けるため、出発時間をずらした。
- ・クスノキ科で類似樹木クスノキ、ヤブニッケイ、シロダモの特徴について説明。
- ・中央稜出合の道沿いには、特徴ある木々が多くみられる。
- ・風吹岩下で、じっくりと冬芽、葉痕を観察した。

《観察植物》

クスノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、ハゼノキ、
ヤマコウバシ、ソヨゴ、カゴノキ、タカノツメ
コシアブラ、ヤマコウバシ、イヌシデ、ヌルデ
ウラジロノキ、クロモジ、エゴノキ、ネジキ
ヤマハゼ、リョウブ、ガマズミ、ヤマウルシ



(3) 風吹岩(出発13:15)→魚屋道分岐点→火の見櫓→旗振小屋跡(14:00)→保久良神社(トイレ)
→保久良梅林→天上川公園(到着14:55、解散15:10)

- ・ムラサキシキブ、クチベニダケの説明。
- ・魚屋道を過ぎて、雨が降り始め、雨具装着を行う。
- ・歩きながら火の見櫓をみて、旗振小屋跡広場で、この周辺が江戸時代、明治に米相場を伝えた旗振山であったことを説明する。
- ・雨が強くなり、保久良神社への下り道は滑らないよう安全を確認しながら下る。
- ・保久良神社梅林の小道を抜けて帰路についた。紅白の梅が咲き始めほのかな香りを楽しめた。
- ・天上川公園に予定時間通り到着し、全員の安全を確認し解散した。

《観察植物》

モチツツジ、コバノミツバツツジ、ムラサキシキブ
クチベニダケ、ミヤマガマズミ、エゴノキ、シロダモ
ヤブニッケイ、クスノキ、ウメ

4. 感想

- (1) 第1 堰堤広場、第2 堰堤広場、風吹岩下で多くの木々の冬芽、葉痕の観察を、時間をかけて行った。ビジターから、楽しく学べたとの評価を得た。
- (2) ビジターから今回の冬芽、葉痕観察で植物の面白さを知り、もっと知りたいとの感想があった。ルーペや虫眼鏡を用い、個人個人で観察し発見したことより、更なる興味関心をもっていただけたと考える。
- (3) 天候が崩れるとの予報があり、観察会ができないのではと心配した。ところが、18名のビジター、25名の会員の参加があり、担当班として、観察会を行えた。
- (4) いつ雨が降るかと心配しながらの観察会であった。昼過ぎまで天気はもったが、後半雨が降り始め観察、説明がやや省略の形になったことが残念だった。
- (5) 当初ビジター対応は4班構成で準備していたが、参加者18名で2班構成とした。観察会終了後、従来通り4班体制で行っていれば、ビジターにもっと満足される観察会ができたのではとの意見があった。

以上